

研究テーマ

直接面会できない家族に対する看護師の関わりの影響 ～信頼関係の構築～

病 院 名

医療法人常磐会 いわき湯本病院

演 者

〇渡邊千晴(看護師) わたなべ ちはる 鈴木早矢香(看護師) 薄井智美(看護師)

概 要

【研究背景】

新型コロナウイルスの影響で長期に面会制限されている中、患者に直接会うことができない家族は多くの不安を抱えているのではないかと考えた。現在、荷物の受け渡しを看護師が行い、患者の状況を伝えながら家族と対話する時間を設けているが、直接目にすることが出来ない不安は払拭できない。飯塚ら¹⁾の「患者信頼スケール家族用」を活用し、さらに看護師が効果的に家族と関わることであれば信頼関係に影響を及ぼすのではないかと考えた。

【研究目的】

看護師が飯塚ら¹⁾の「患者信頼スケール家族用」を活用し効果的に家族と関わりを持つことが、家族との信頼関係に影響を及ぼすかを明らかにする。

【研究方法】

1研究対象:A病院の入院患者で面会制限中に来院して同意を得た家族
2データ収集方法 1)飯塚ら¹⁾の「患者信頼スケール家族用」を基にアンケート実施。
2)分析方法:マン・ホイットニー検定で統計処理 3)介入方法:飯塚ら¹⁾の「患者信頼スケール家族用」を行動化し実践する。 4)倫理的配慮:研究の説明書・同意書を作成し当院の倫理委員会で承認を得た。

【結果】

28項目中【22. 患者が看護師にそばにいてほしいと思う時にはいつでもいてくれていると思う】【27. 患者は将来の見通しが立たない時には看護師に相談してみようと思うだろう】の2項目において有意差がみられた。

【考察】

飯塚ら¹⁾の「患者信頼スケール家族用」を基に実際の家族対応を想定したロールプレイングと情報共有により、全ての看護師が一定のタイムリーな情報提供が行え、患者の様子を伝えながら視覚的情報として写真を見せた事が家族のニーズに応えた形となった。十分な情報を持ち患者に寄り添いその思いを家族に伝えることが出来たことで家族の意識変化に繋がり看護師への信頼関係に影響を及ぼしたと考える。また介入対象者がキーパーソン以外に複数いた家族が6家族(13.6%)あったため介入回数が分散し統計学的に有意差をもたらすまでに至らなかった項目も多くあったのではないかと考える。

【結論】

1. 飯塚ら¹⁾の「患者信頼スケール家族用」の28項目のうち2項目で統計学的に有意差が認められた。
2. 看護師の統一した家族対応と、写真などの視覚情報を一緒に提供することは、家族との信頼関係に影響を及ぼした。
3. 介入対象者がキーパーソン以外に複数いた家族が6家族(13.6%)あったため、介入回数が分散し統計学的有意差をもたらすまでに至らなかった項目があったのではないかと考える。

【引用参考文献】

1)飯塚麻紀・藤尾裕子・志賀令明・岡谷恵子:「患者信頼スケール家族用」の信頼性および妥当性の検討ー2016